

広報つるおか特集号

令和2年度

# 鶴岡市決算特集



新型コロナウイルス感染症の流行が続く中、地域住民が安心して暮らすことができるよう、医療従事者の皆さんは日々奮闘しています。

写真：県の重点医療機関としてコロナ対応に当たる庄内病院  
※撮影のため、マスクを外しています。

## 歳入の特徴

特別定額給付金給付事業費補助金や新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金など国庫支出金の増加によって、前年に比べ大幅な増額となっています。

## 普通会計歳入決算額

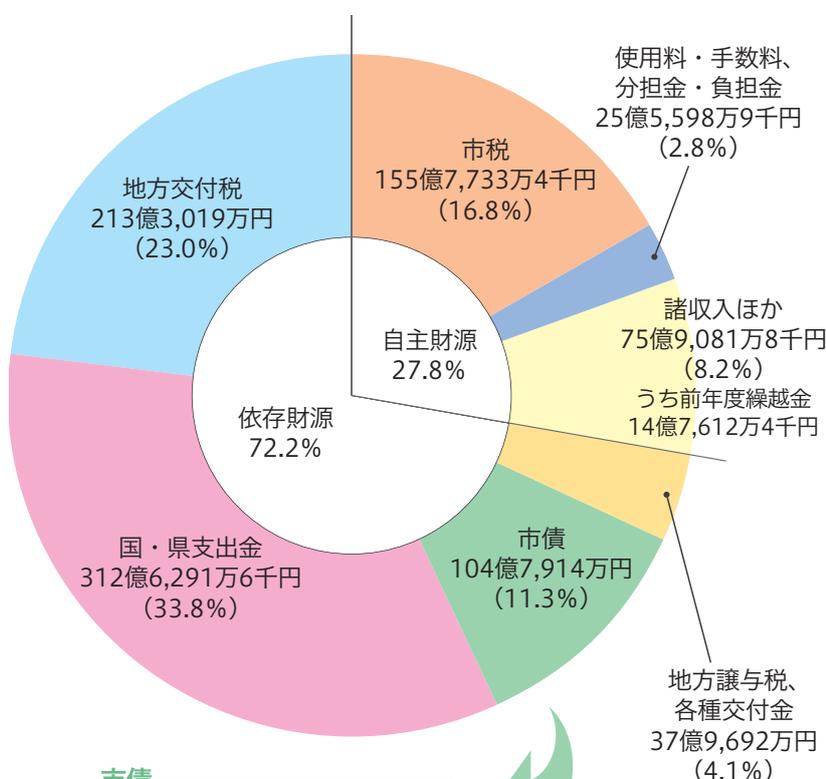
# 925億9,330万7千円

(対前年度 +168億5,150万8千円)

# 令和2年度の 決算を 報告します

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染防止、市民生活の支援や地域経済対策に取り組みながら、本市の最重要課題である少子化・人口減少対策をはじめ、第2次総合計画に掲げる各種施策を推進しました。

### 歳入の内訳 グラフ①



#### 市債

合併特例債や過疎債、辺地債など後年度に有利な交付税措置が受けられる起債を最大限活用しています。

### 用語の解説

- **自主財源** 市税などの自主的な収入
  - **市税**…市民税、固定資産税、軽自動車税、市たばこ税、入湯税、都市計画税など
  - **使用料・手数料**…市の施設の利用料、証明書発行手数料など
  - **分担金・負担金**…特定のサービスを受けた方が負担したお金
  - **諸収入ほか**…貸付金の元金収入など
  - **前年度繰越金**…前年度から繰り越したお金
- **依存財源** 国や県から定められた額を交付されたり、割り当てられたりする収入
  - **地方交付税**…所得税等の国が徴収した税金の中から、市の財政状況に応じて交付されたお金
  - **国・県支出金**…特定の事務・事業のための財源として、国や県から交付されたお金
  - **市債**…投資的経費等に充てるため、国や金融機関から借りたお金
  - **地方譲与税**…国が徴収した自動車重量税等から配分されたお金
  - **各種交付金**…地方消費税交付金などの、国から配分されたお金

## 歳入額を市民1人あたりに換算すると 75万1,899円

| 市税などの収入   | 国からの収入  | 県からの収入  | 市債 (借入金)  | その他の収入   |
|---|---|---|---|--|
| 17万9,809円   | 38万7,635円   | 7万2,277円  | 8万5,095円  | 2万9,083円   |
|  <ul style="list-style-type: none"> <li>市税 12万6,495円</li> <li>使用料・手数料 8,183円</li> <li>分担金・負担金 12,573円</li> <li>諸収入ほか 3万2,558円</li> </ul> |  |  |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>前年度繰越金</li> <li>基金繰入金</li> <li>寄附金</li> <li>など</li> </ul> |

※令和3年3月31日現在の人口：123,146人で算出

## 歳出の特徴

国費を主要財源とする新型コロナウイルス感染症対策に係る各種事業費や、大雪による除雪対策事業費の増加等のため、全体として大幅な増額となっています。

あわせて、将来の市政運営を見据えて財政構造の健全化にも取り組んだ結果、普通会計の実質収支は13億2,733万7千円（6ページ参照）と、昨年度に引き続き黒字を確保しました。

また、荘内病院では、新病院となつて初めて黒字となるなど、全ての特別会計、企業会計で黒字決算となりました。

一方、合併以降受けてきた地方交付税の優遇措置が令和2年度をもって終了するとともに、これまでの市債の返済が本格化しています。

今後も第2次総合計画と行財政改革を両立させる取り組みを推進していきます。

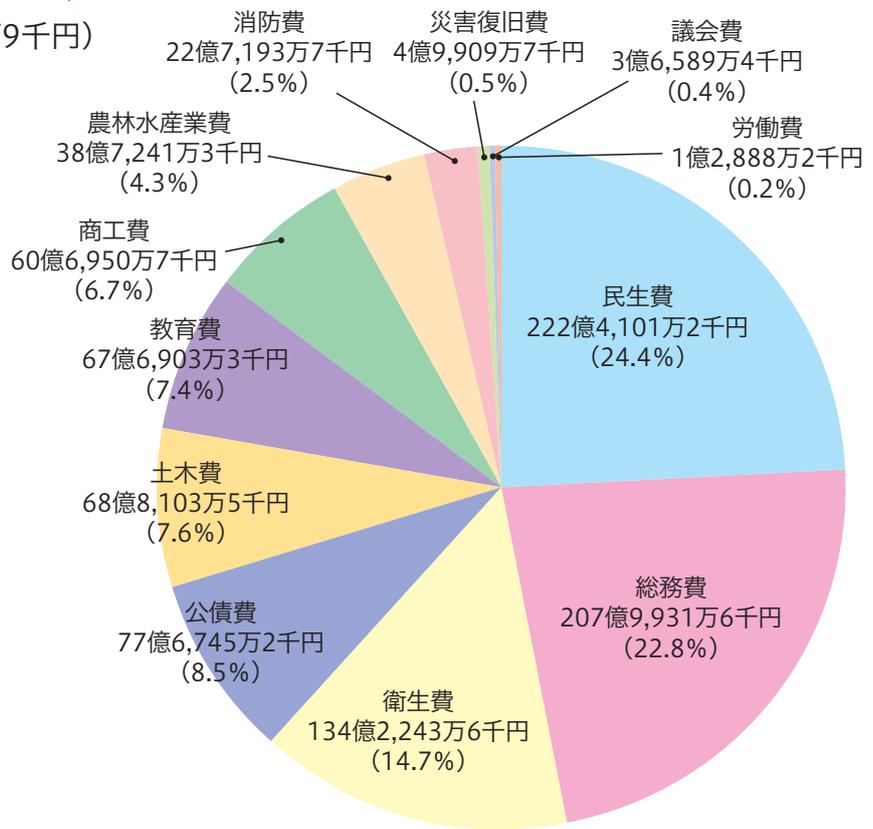
## 普通会計歳出決算額

# 910億8,801万4千円

内、新型コロナウイルス感染症対策関連177億1,783万円

(対前年度 +168億2,233万9千円)

歳出の内訳 グラフ②



## 用語の解説

- 民生費…福祉や保育などのお金
- 総務費…課税・納税、職員管理などのほか、総務・企画的な業務のためのお金
- 衛生費…健康増進やごみ処理などのお金
- 公債費…市の借金返済のためのお金
- 土木費…道路や橋の建設、除雪などのためのお金
- 教育費…教育などのお金
- 商工費…商工業や観光の振興のためのお金
- 農林水産業費…農林水産業の振興のためのお金
- 消防費…消防や救急、救助活動などのお金
- 災害復旧費…自然災害の復旧工事のためのお金
- 議会費…市議会の運営のためのお金
- 労働費…雇用対策などのお金

## 歳出額を市民1人あたりに換算すると 73万9,675円

|                 |                    |                  |                 |                 |                 |
|-----------------|--------------------|------------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 民生費<br>18万607円  | 総務費<br>16万8,900円   | 衛生費<br>10万8,996円 | 公債費<br>6万3,075円 | 土木費<br>5万5,877円 | 教育費<br>5万4,967円 |
| 商工費<br>4万9,287円 | 農林水産業費<br>3万1,446円 | 消防費<br>1万8,449円  | 災害復旧費<br>4,053円 | 議会費<br>2,971円   | 労働費<br>1,047円   |

# 令和2年度の財政状況

## 前年度と比べた主な歳入の状況（主な増減の理由）

グラフ①・③参照

### ■自主財源

- 市税…3億6,732万6千円の増  
法人市民税や入湯税の減、個人市民税や固定資産税の増

### ■依存財源

- 地方交付税…1億9,620万円の減  
普通交付税の減
- 国庫支出金…153億8,810万1千円の増

特別定額給付金給付事業費補助金や新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の増

- 県支出金…2億1,649万8千円の増  
新型コロナウイルス感染症対策に係る各種補助金や国勢調査委託金などの増
- 市債…4億6,996万円の減  
公立保育園移転改築事業の減

令和2年度は、合併特例期間終了後の財政の健全性に留意しつつ、第2次総合計画における重要事業や地域の特性を生かした地域まちづくり未来事業などを推進しました。

さらに、新型コロナウイルス感染症対策として感染防止対策に取り組みとともに、市民生活や地域経済への影響を考慮し、様々な支援等対策

## 前年度と比べた主な歳出の状況（主な増減の理由）

グラフ②・③・④参照

### ■義務的経費（支出が義務付けられているお金）

- 人件費…8億5,262万2千円の増  
会計年度任用職員制度（★）の開始による増
- 扶助費（生活保護費や障害者等への援助費など福祉のためのお金）…1億7,161万8千円の増  
子どものための教育・保育給付事業の増
- 公債費…1億8,363万7千円の減

繰上償還による市債償還額の減

- 投資的経費（道路や建物の建設など、社会資本として将来に残るものに使われるお金）
- 普通建設事業費（道路や学校等、公共施設の建設費など）…6億379万8千円の減  
公立保育園移転改築事業、小・中学校冷房設備整備事業の減

また、行財政改革を進めるため、定員適正化や、事務事業の見直しなどによる経常経費の縮減、基金の活用と維持拡充、市債の繰上償還などを実施しました。

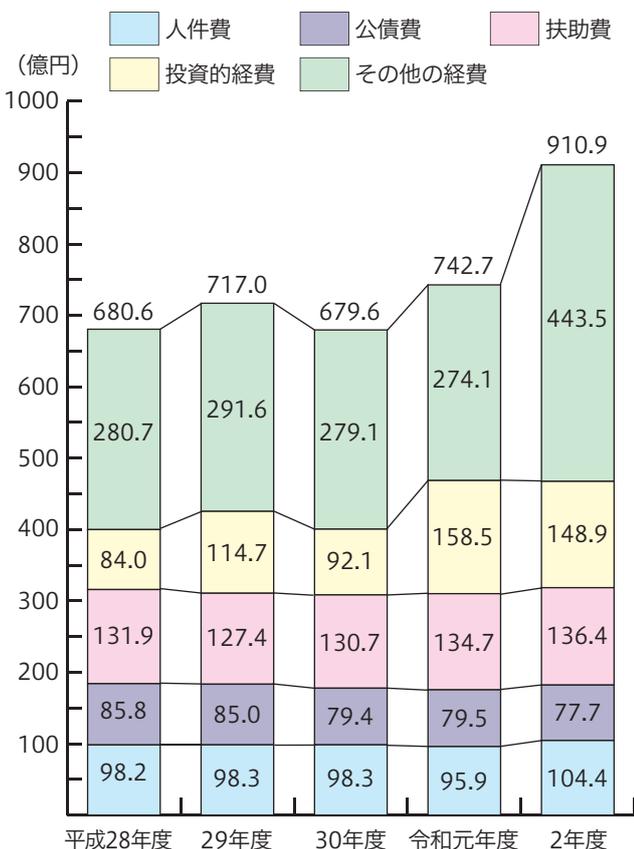
これらの結果、令和2年度の決算は、一定の剰余金を計上し、財政の健全性を維持することができました。

### ★会計年度任用職員制度

地方公務員法等の改正により、パートタイム任用職員の報酬等が従来の物件費から人件費に変更された

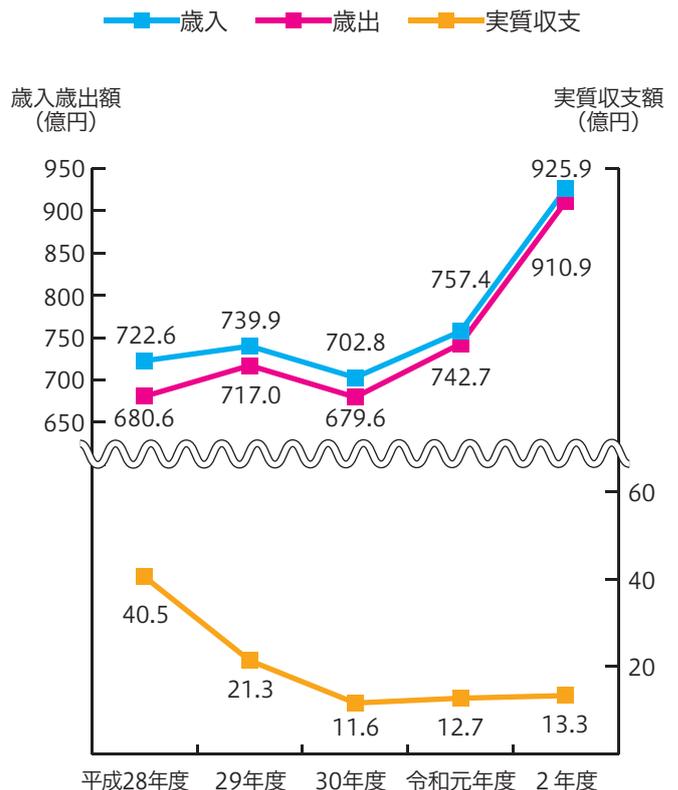
## 普通会計の性質別歳出額の推移

グラフ④



## 普通会計の歳入歳出額と実質収支額の推移

グラフ③



## 鶴岡市の貯金額は？

積立基金(貯金)の総額  
175億5,965万9千円  
(対前年度 +2億9,924万円)

市民1人当たり  
14万2,592円

積立基金の総額は、対前年度2億9、924万円の増となりました。

これは小・中学校GIGAスクール構想推進事業に充てるため地域振興基金を2億6、000万円、財政の健全な運営を図るため財政調整基金を2億円取り崩した一方で、緊急経済対策金融支援基金に6億1、200万円、財政調整基金に2億1、416万5千円、地域まちづくり未来基金に2億1、150万円を積み立てたことなどによるものです。

必要な事業への財源活用や財政の安定化のため、適切な基金の取り崩しと、目的に応じた基金への積み増しによって、基金の維持拡充を図っていきます。

### 積立基金の状況(種類と年度末残高)

|              | 平成30年度末     | 令和元年度末      | 令和2年度末      |
|--------------|-------------|-------------|-------------|
| 財政調整基金       | 45億7,557万円  | 44億6,686万円  | 44億8,102万円  |
| 減債基金         | 45億3,949万円  | 40億6,549万円  | 40億8,453万円  |
| その他の特定目的基金   |             |             |             |
| 地域振興基金       | 33億円        | 33億円        | 30億4,000万円  |
| 公共施設整備基金     | 31億1,175万円  | 28億5,008万円  | 27億7,269万円  |
| 加茂水族館整備振興基金  | 12億5,553万円  | 13億8,091万円  | 13億4,288万円  |
| 緊急経済対策金融支援基金 | -           | -           | 6億1,200万円   |
| 地域まちづくり未来基金  | 4億9,261万円   | 4億8,107万円   | 5億3,211万円   |
| その他          | 7億7,198万円   | 7億1,601万円   | 6億9,443万円   |
| 小計           | 89億3,187万円  | 87億2,807万円  | 89億9,411万円  |
| 合計           | 180億4,693万円 | 172億6,042万円 | 175億5,966万円 |

### 用語の解説

**財政調整基金** 年度間の財源の不均衡を調整するための基金。経済不況等による大幅な税収減や、災害の発生等による支出の増加などへの備えとして積み立てている

**減債基金** 地方債の償還及びその信用維持のために設置する基金。公債費の償還を計画的に行うために積み立てている

**地域振興基金** 合併市町村が地域住民の一体感醸成や地域振興を目的に設置する基金

**緊急経済対策金融支援基金** 新型コロナウイルス感染症の緊急経済対策に係る利子補給等に必要な財源を確保する基金

## 鶴岡市の借金額は？

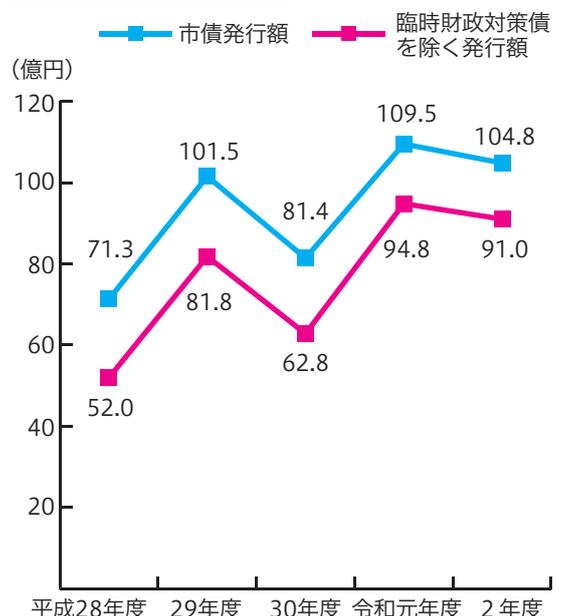
市債(借金)残高の総額  
814億8,645万円  
(対前年度 +30億495万8千円)

市民1人当たり  
66万1,706円

市債の残高は、対前年度30億495万8千円の増となりました。

ごみ焼却施設整備事業や一般廃棄物最終処分場整備事業などの大型投資事業の実施によって借入額が104億7、914万円となり、元金償還額の74億7、418万2千円を上回ったことによるものです。なお、この借金の中には、その全額が交付税措置される臨時財政対策債(★)も含まれ、それを除いた市債の残高は564億7、312万9千円で、対前年度35億7、327万円の増となっています。また、借金をする場合でも、合併特例債や過疎債・辺地債などの交付税措置のある有利な起債を最大限活用し、将来負担の軽減を図っています。

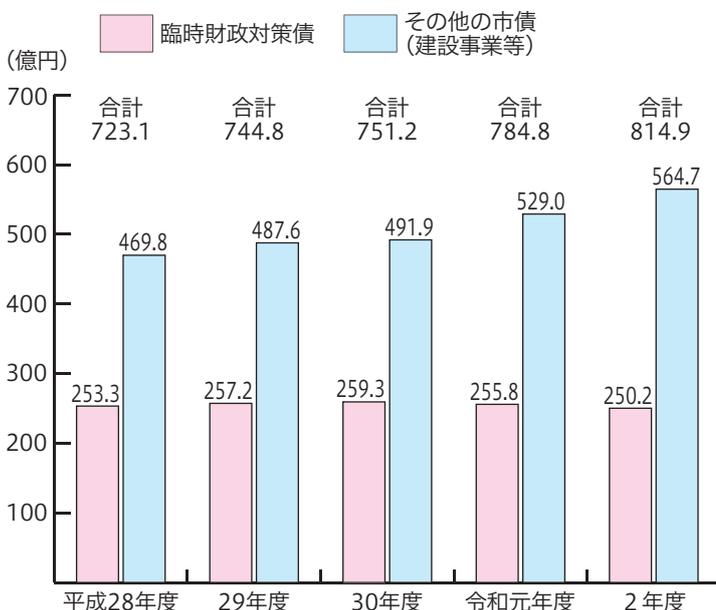
### 市債発行額の推移



★臨時財政対策債

一般財源の不足を補うために特例で発行される市債。その全額が国から交付税措置される

### 市債残高の推移



# 普通会計決算収支の状況

|                          | 令和2年度         | 令和元年度         | 増減            |
|--------------------------|---------------|---------------|---------------|
| 歳入決算額<br>①               | 925億9,330万7千円 | 757億4,179万9千円 | 168億5,150万8千円 |
| 歳出決算額<br>②               | 910億8,801万4千円 | 742億6,567万5千円 | 168億2,233万9千円 |
| 形式収支<br>③=①-②            | 15億 529万3千円   | 14億7,612万4千円  | 2,916万9千円     |
| 翌年度に<br>繰越すべき財源<br>④     | 1億7,795万6千円   | 2億 499万5千円    | ▲2,703万9千円    |
| 実質収支<br>⑤=③-④            | 13億2,733万7千円  | 12億7,112万9千円  | 5,620万8千円     |
| 単年度収支<br>⑥=⑤-⑤'          | 5,620万8千円     | 1億1,214万4千円   | ▲5,593万6千円    |
| 財政調整基金<br>積立金<br>⑦       | 2億1,416万5千円   | 1億9,128万7千円   | 2,287万8千円     |
| 繰上償還金(★)<br>⑧            | 2億1,370万8千円   | 2億3,122万7千円   | ▲1,751万9千円    |
| 財政調整基金<br>取崩し額<br>⑨      | 2億円           | 3億円           | ▲1億円          |
| 実質単年度収支<br>⑩=<br>⑥+⑦+⑧-⑨ | 2億8,408万1千円   | 2億3,465万8千円   | 4,942万3千円     |

令和2年度は、歳入は市税やふるさと寄附金が増収となり、また経費節減など歳出抑制の効果なども現れ、実質単年度収支は前年度に引き続き黒字となりました。引き続き、歳入と歳出のバランスを保ち財政の健全化に努めます。

⑤'…前年度の実質収支

★繰上償還金

今後の財政負担の軽減を目的に、後年度に返済予定の市債の元金を前倒して返済するもの

## 特別会計

特定の事業を特定の収入で賄う会計です。収支を明確にするため一般会計とは経理を別にします。

| 会計名等             | 歳入決算額       | 歳出決算額       | 一般会計繰出額    | 主な事業の内容         |
|------------------|-------------|-------------|------------|-----------------|
| 国民健康保険特別会計(事業勘定) | 137億3,330万円 | 120億8,015万円 | 8億5,143万円  | 国民健康保険の円滑な運営    |
| 国民健康保険特別会計(直診勘定) | 4,132万円     | 4,118万円     | 2,500万円    | 上田沢・大網診療所の運営    |
| 後期高齢者医療保険特別会計    | 16億7,400万円  | 16億6,992万円  | 4億8,167万円  | 後期高齢者医療保険の円滑な運営 |
| 介護保険特別会計         | 168億1,396万円 | 161億1,523万円 | 22億1,769万円 | 介護保険の円滑な運営      |
| 休日夜間診療所特別会計      | 5,865万円     | 5,859万円     | 740万円      | 休日夜間・休日歯科診療所の運営 |
| 墓園事業特別会計         | 1,579万円     | 148万円       | -          | 鶴岡墓園等の管理運営      |

ここでは特別会計と企業会計の決算をお知らせします。これらの事業は営利目的ではなく公益的であるため、収入が不足する場合は一般会計からの繰出金を受けて運営しています。

# 令和2年度の特別会計と企業会計の決算

## 企業会計

民間企業と同様に、事業の収益によって運営している会計です。地方公共団体が経営する企業を「地方公営企業」と言い、本市では病院、水道、下水道の3つの企業会計を設けています。

| 会計名等  | 収入決算額 | 支出決算額       | 一般会計繰出額     | 主な事業の内容    |           |
|-------|-------|-------------|-------------|------------|-----------|
| 病院事業  | 収益的収支 | 141億4,949万円 | 137億2,021万円 | 10億4,982万円 | 病院事業の運営   |
|       | 資本的収支 | 14億6,098万円  | 18億8,475万円  | 10億 88万円   | 病院施設の整備等  |
| 水道事業  | 収益的収支 | 34億1,039万円  | 30億4,257万円  | 3,344万円    | 水道事業の運営   |
|       | 資本的収支 | 1億3,328万円   | 12億5,896万円  | 1,865万円    | 水道施設の整備等  |
| 下水道事業 | 収益的収支 | 57億3,565万円  | 55億4,556万円  | 11億7,647万円 | 下水道事業の運営  |
|       | 資本的収支 | 44億 924万円   | 62億5,469万円  | 14億2,969万円 | 下水道施設の整備等 |

# 財政健全化判断比率等

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づき、財政健全性に関する比率（健全化判断比率、公営企業の資金不足比率）を公表しています。各比率が基準を超えた場合は、財政健全化計画の策定等が義務付けられます。

鶴岡市の状況は表①のとおりです。

## ○実質公債費比率

地方公共団体の資金繰りの危険度を示す指標です。公債費のほかに公営企業債に対する繰出金や一部事務組合の公債費に対する負担金等を含めた実質的な公債費相当額が、標準財政規模（★）に占める割合を指します。

2年度は5・8%で、対前年度で0・3ポイント改善しました。

## ○将来負担比率

将来の財政を圧迫する可能性についての指標です。実質公債費比率の対象となつている公債費等に加え、第三セクターの負債のうち、市が損失補償や債務保証をしているもので経営状況等に応じて見込んだ負債額を合算した将来負担額が、標準財政規模に占める割合を指します。

2年度は、正職員数の減による退職手当負担見込額の減等により、対前年度で3・9ポイント改善して50・5%になりました。この水準は、早期健全化基準350%を大きく下回っていることから、将来の財政運営に支障を来す状況ではないと判断されます。

## ★標準財政規模

その地方公共団体が標準的な状態で通常収入が見込まれる一般財源の規模を示すもので、通常水準の行政サービスを提供する上で必要な一般財源の目安

財政健全化判断比率等 表①

単位：%

| 指標                   | 指標の意味                | 鶴岡市の数値         | 早期健全化基準<br>(黄色信号) | 財政再生基準<br>(赤信号) |
|----------------------|----------------------|----------------|-------------------|-----------------|
| 財政健全化判断比率            | 実質赤字比率               | - ※1<br>(-)    | 11.48<br>(11.50)  | 20.00           |
|                      | 連結実質赤字比率             | - ※2<br>(-)    | 16.48<br>(16.50)  | 30.00           |
|                      | 実質公債費比率              | 5.8<br>(6.1)   | 25.0              | 35.0            |
|                      | 将来負担比率               | 50.5<br>(54.4) | 350.0             |                 |
| 資金不足比率<br>(公営企業会計ごと) | 公営企業ごとの経営状況の深刻度を示す指標 | - ※3           | 経営健全化基準<br>20.00  |                 |

( )内は元年度の数値

- ※1…本市の普通会計で実質赤字額は生じていない。
- ※2…本市の一般会計、特別会計等の全体で実質赤字額は生じていない。
- ※3…本市の全ての公営企業会計で資金不足額は生じていない。

## 今後の課題

これからの財政運営

### 【合併特例期間が終了】

▼優遇措置が終了しました  
○地方交付税の優遇措置の終了

平成28年度から5年間掛けて段階的に縮減されてきた地方交付税の優遇措置が、令和2年度をもって終了しました。

▼合併特例債の残りが僅か

○発行可能残額は約30・4億円（令和2年度決算時）

合併特例債は、事業費に対する起債の割合や、交付税算入率などでほかの起債より有利な起債です。令和7年度まで発行可能ですが、発行可能額が残り少なくなっています。

### 【今後の財政運営は？】

▼更なる行財政改革に取り組みます

○安定的な収入を増やす取り組み

歳入は、国・県の交付金や市債等の依存財源に頼っています。安定的な収入となる自主財源の確保に向けて、税源のかん養、市税等の徴収率の

向上、受益者負担の適正化を一層図っていく必要があります。また、ふるさと寄附金の増収に努めます。

○歳出を減らす取り組み

必要な施策を実施する一方で、費用の増大を招かないよう、職員定数の適正化、事務事業の更なる効率化を図り、経常経費を一層節減し、適正な優先度に基づく投資事業の実施に努めていく必要があります。

○基金の活用

地方交付税の縮減に備え、平成22年以降に生じた黒字分を基金に積み立ててきました。安定的な財政運営のために財政調整基金など各種基金の適切な水準維持に努めながら、有効に活用していきます。

今後も、対話を重視し、市民本位の視点からの行財政改革に積極的に取り組みつつ、コロナ禍による社会経済活動の変化による本市財政への影響も考慮しながら、より一層の財政の健全化に努めます。市政の振興・発展と安全・安心な市民生活の維持向上のために必要な各種施策に着実に取り組んでいきます。

# 令和2年度の主な事業

令和2年度に実施した事業の一部を写真で紹介します。



## GIGAスクール構想推進事業

本市の全ての小・中学校に、高速大容量の通信ネットワークと1人1台のタブレット型パソコンを整備しました。令和3年度から、教員や子供たちが積極的に端末を活用しながら学んでいます。



## 新型コロナウイルス感染症対策 医療従事者支援事業

新型コロナウイルス感染症の感染リスクと闘いながら、地域医療を支えている多くの医療従事者を支援するため、赤川花火大会とコラボレーションした新型コロナ感染症対策支援寄付金を創設。ふるさと納税も活用し、感染防止対策の徹底や地域医療の維持に向け、医療物資を贈呈しました。



## ごみ焼却施設整備事業

平成30年度から実施していた、新たなごみ焼却施設建設工事が3月に完了。令和3年4月からは、ごみ焼却の熱を利用して発電を行い、施設の電気をまかないながら、余った電気は売電し、市内の小・中学校など地域に電気を送っています。



## 子ども見守りサポートモデル事業

放課後児童クラブがない小学校区の児童が安全に過ごせるよう、小学校の長期休業中等に自治振興会などの地域団体が実施する預かり事業を支援しました。



## 地魚消費・利用促進事業「パパっとお家で魚ごはん講座」の開催

食のアンバサダー（第1回次世代料理人決定戦入賞者）に任命されている料理人が講師を務め、地魚を家庭で調理する際のポイントやメニューなどを伝授。講座の様子は鶴岡食文化創造都市推進協議会ホームページで公開しています。



## コミュニティセンター整備事業

旧小堅小学校の校舎を活用し、小堅コミュニティセンターを整備しました。地域の活性化や関係人口の拡大を目指し、地域の活動拠点として、住民のまちづくり活動や地区内外の方々との交流等に取り組んでいます。



### SDGs 未来都市推進事業

令和2年7月に、本市は「SDGs 未来都市」に選定。市民へのSDGsの普及推進のため、市内中学校で出前講座を実施しました。



### 地域介護予防活動支援事業

住民主体の介護予防活動や通いの場づくりの取り組みを推進しています。活動が定着してきた団体には、高齢者が気軽に取り組めるよう考案したリズム体操「つるおか元気体操」のDVDを作成し配布するなど、継続して支援しています。



### 園芸産地つるおかプロジェクト事業

園芸作物の農業産出額200億円の達成に向けて、生産者の増加や作付面積の拡大を図るため、JAと協調した重点的支援を実施。榊引地域にキュウリ、西郷地区にミニトマトのパイプハウス団地等を整備しました。



### 酒井家庄内入部400年記念事業の公式ロゴマークが決定

令和4年の酒井家庄内入部400年記念の年に向け、公式ロゴマークデザインを公募。一般投票による最終審査を経て3月に決定しました。



### 荘内病院の遺伝子検査室・検査機器の整備

新型コロナウイルス感染症患者の確認を迅速に行うため、遺伝子解析装置（PCR検査機器）等を購入し、新たに遺伝子検査室を整備しました。



### 鶴岡公園正面広場整備事業

令和4年度の完成を目指す鶴岡公園正面広場の実施設計を作成するに当たり、市民の意見を大切にしようとして市民ワークショップを開催。高校生や子育て関係者など幅広い方が参加しました。景観の保全等を考慮しつつ、ワークショップの意見も踏まえた整備内容となっています。



### 鶴岡市民芸術フェスタ2020（芸術文化振興事業）

新型コロナウイルス感染症の影響で「鶴岡市芸術祭」が中止となったため、発表の機会を設けることで市内の団体の芸術文化活動を支援しようと開催。36団体・約500人が荘銀タクト鶴岡の舞台で活動の成果を披露しました。

令和2年度に各地域の特性を生かして実施した事業を紹介します。

## 〈鶴岡地域〉



### 鶴岡地域まちづくり未来事業

日本遺産「北前船寄港地・船主集落」に認定されている加茂地区。住民を対象に観光ガイドを養成する研修を行ったり、観光看板を設置したりするなど、地区住民が主体となって加茂地区の魅力や歴史の発信に取り組んでいます。

## 〈櫛引地域〉



### たらのきだいネイチャーパーク事業

櫛引たらのきだいスキー場の魅力向上のため、赤・緑・青のカラフルな3色照明を3つ設置。幻想的なグレンデは、SNS（会員制交流サイト）で映えるスポットとして、多くの家族連れや若者などでにぎわいました。

## 〈朝日地域〉



### 食と六十里越街道トレッキング連携事業

「里山料理付き！落ち葉の六十里越街道を往く」をテーマに開催しました。参加者がトレッキングで大自然を満喫した後に、地場産食材をふんだんに活用した里山料理を提供。食文化を地域の魅力として発信しました。

## 〈藤島地域〉



### 次世代を担う子供たち食農体験事業

地域の子供たちに、農業の魅力を知ってもらい、その未来への関心や地域への誇りを持ってもらおうと「田んぼの生き物調査」を実施しました。藤島地域の3つの小学校の5年生83人が、田んぼに入り、農業と生き物の関わりを学ぶとともに本市の豊かな自然環境を体感しました。

## 〈羽黒地域〉



### 羽黒山随神門前ポケットパーク整備事業

羽黒山観光の起点となる随神門前に、トイレ、待合所、広場を兼ね備えた新たなにぎわい拠点「羽黒山随神門前ポケットパーク」を整備しました。

## 〈温海地域〉



### 温海地域公共交通網形成事業

路線バスに代わる公共交通として、昨年10月1日に温海地域乗合タクシーの試験運行を開始。温海地域公共交通運営協議会が運営主体となり、地域に根ざした、より良い生活交通の実現を目指し取り組んでいます。

鶴岡市の財政・決算及びこの特集についての問合せは本所財政課へ  
☎25 - 2111内線350、✉zaisei@city.tsuruoka.lg.jp